

横浜市交通政策推進協議会  
第18回地域交通部会 会議要旨

- 1 日時 令和4年8月4日(火) 14:00~16:00
- 2 場所 市庁舎18階共用会議室 なみき17
- 3 議事内容 (1) 地域交通の取組について  
(2) 事例紹介(博報堂・ノッカル)
- 4 議事要旨

【1 地域交通の取組について】

- (1) これまでの検討の振り返り
- (2) 現在の取組状況について
- (3) 今後の取組案について

⇒ 道路局企画課、政策局政策課、都市整備局都市交通課から説明

(主な意見)

- ・都市整備局の実証実験について、住宅地と既存バス路線や身近な生活利便施設とをつなぐ移動を検討するという話だった。駅までつないでしまうと、既存のバス路線と重なってしまうのではないかと。
- 地域によって、最寄りバス停周辺になることも鉄道駅になることも考えられる。地域や事業者と協議しながら、実態に合わせて検討できればと思う。
- ・ボランティアバスにおいて、利用者が求めているものは家の前までの移動である。帰りだけでも良いので、タクシーの利点を生かして家の前までの移動を可能にすべき。オンデマンドバスの実験にあまり成功例がないのはそこに原因があるのでは。また、乗降場所は高齢者が休まず歩ける距離なども考えて検討してみるとよいと思う。
- ・実証実験の検討の際、障害者の視点も必要ではないか。利用していただくにあたっては介助の技術を必要とするが、地域の中で広く発信して、色々な方が乗れると印象付ける発信の仕方が必要だと思う。
- ・運転者講習については、被保険者証の送付に合わせ、全対象者へ案内している事例もある。運転者講習がきっかけとなりボランティアサービス、デイサービスの運転手、福祉有償運送などの担い手に繋がっている。既存の団体への参加に加え、新たなグループも増えている。
- ・子育てタクシーの取組を行っているが、タクシーを利用したい時間が少しづれるだけで相乗りが成立しないケースが目立った。タクシーは個々の細かなニーズに合わせて柔軟に使いたいという考えの方が多いのではと思った。また、利用にあたってのアプリ等の使い勝手も良いことが必要。

## 【2 事例紹介】

⇒ 富山県朝日町における自家用有償運送「ノッカル」について博報堂より説明

(主な意見)

- ・住民も参加する公共交通という点に共感する。交通以外で専門性を持つ事業者が協力して交通に関する検討を行う取り組みには期待が持てる。
- ・既存のタクシー事業者からの意見はどうであったか。  
→地域の未来なくして事業者の未来はないという点に共感していただけたことは大きい。潜在需要を生み出すことで、事業者にとってもメリットが出ていると思う。
- ・障害者も運行管理面などで取組に参加できるとよい。自分ができることを出し合っていく社会を目指していくべき。

## 5 出席者

- ・特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
- ・アサヒタクシー株式会社
- ・神奈川中央交通株式会社
- ・株式会社共同
- ・東宝タクシー株式会社
- ・特定非営利活動法人横浜移動サービス協議会
- ・健康福祉局 福祉保健課
- ・健康福祉局 障害自立支援課
- ・健康福祉局 地域包括ケア推進課
- ・健康福祉局 高齢在宅支援課
- ・こども青少年局 企画調整課
- ・道路局 企画課 交通計画担当
- ・都市整備局都市交通課

(説明者)

株式会社博報堂

以上